

しの老人の訪問等、実践活動に移行していった。

② 青少年健全育成グループ

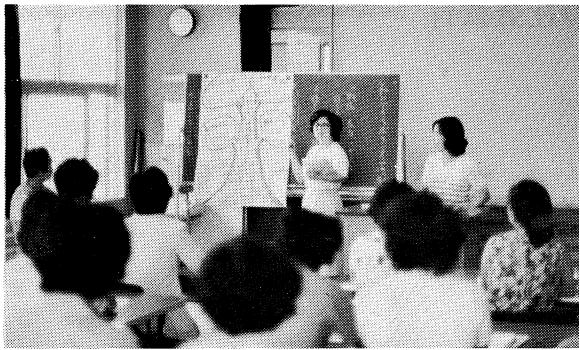
町の青少年犯罪白書について分析し、夜間パトロールを実践し、その補導などに当たった。

③ 近隣社会地域環境美化グループ

町のゴミ問題と取り組み、保健委員等の協力関係で美化問題について学習し、実践活動に移行している。

この調査をとおして、は握した資料を、地域社会の問題として町広報「かわまた」に掲載し、地域住民に訴えて反響を呼んだ。

自ら地域課題を発見したグループ員



県婦人教育指導者研修生の伝達学習風景

は、今年度も自主活動グループとして着実な歩みを続けている。

(2) 川俣町婦人教育研究委員の活動

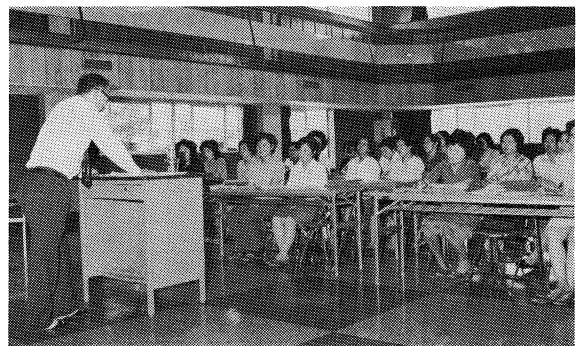
県婦人学級研究委託を機に、その学習内容や方法を研究するために組織した。構成メンバーは、地域婦人会長十名、女性教室運営委員二十名、学識経験者二名とした。この組織の活動は、地域婦人団体への影響が大きく、今年度も継続してその任に当たっていたこととした。

なお、今年度も県婦人学級生大会において、問題提起学級としてその成果を発表する機会が与えられている。

四、就労婦人と学習活動

「働く婦人に学習の場を」というキャッチフレーズで、川俣町勤労婦人スクールを開設して二年目である。今年度は学習課題を「働く婦人の余暇活用と学習」にすえて、積極的な学習活動を展開している。働きながら学ぶことは容易でないが、月一回の日曜日の学習は、私にとつて生きがいの声とともに、公民館の日本間はいつも満員である。

姉学級である女性教室との交歓学習から、ボランティア活動について学び、働く婦人とボランティア活動のあり方を討議し、身近な実践活動と取り組んでいる。働く婦人にこそ学習が必要であると受講生の意欲は高く、職場におけるグループ学習など、企業内におけるあらたな学習の形態を生みつつ



熱心に講義を聞く勤労婦人スクール生

ある。

なお、女性教室においては「若むらさき」、勤労婦人スクールにおいては「はこべの花」という、それぞれの機関誌を年一回発行している。学習の反省評価の資料としてはもとより、その高度な内容は各方面から評価されている。

五、地域づくりと婦人団体活動

地域の生活環境の問題は、住民にとつて等しく重要な課題である。

多くの婦人が主体的な生活態度を確立し、地域コミュニティ形成者としての役割を果たすために、時代の要求に即応した婦人団体の運営のあり方を考

えなければならぬ。

近年婦人団体の衰退が著しく、無関心層の婦人の増大とともに、会員数の減少・高齢化現象は当町においても否めない。このために、地域婦人団体の若手後継者の育成を目的とした中央婦人学級（リーダークラス養成講座）を、農閑期を待つて開講する予定である。

この事業は今年度からの新規事業であるが、婦人団体の主体的な学習と活動を推進するため、是非とも定着させたいものである。

六、今後の課題

- (1) 部落婦人学級の充実を図るため、その拠点となる分館の施設整備が望まれる。
- (2) 婦人学級の学習内容を更に検討し、中核となる婦人の有志指導者の育成を図っていきたい。
- (3) 就労婦人の増加の中で、幼児を持つ若い母親層に対しての学習の機会の拡充と、企業内における学習グループの育成を図っていきたい。

婦人教育をより充実させるために、地域の特性を正しくは握し、効率的な活動を促進することが、地域の社会的課題である。

各種婦人団体の連絡調整を図り、行政間の連絡を密にして、着実な歩みを進めたいと念願している。